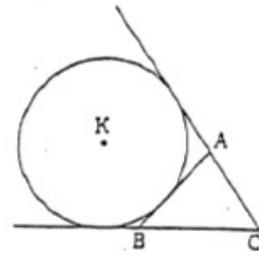


## 傍心

### 【例題】

三角形 ABC を考える。辺 CA の A の方向への延長上および辺 CB の B の方向への延長上にそれぞれ接点を持ち、さらに辺 AB に接する円の中心を K とする。また、 $AB=c$ 、 $BC=a$ 、 $CA=b$  とする。平面上に点 O をとり、 $\vec{OA}=\vec{a}$ 、 $\vec{OB}=\vec{b}$ 、 $\vec{OC}=\vec{c}$  とするとき、 $\vec{OK}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $\vec{c}$  および  $a$ 、 $b$ 、 $c$  で表せ



【問題】2011 杏林大学

平面上に3点O, A, Bがあり,  $|\overline{OA}|=2$ ,  $|\overline{OB}|=3$ ,  $\overline{OA} \cdot \overline{OB}=2$ とする。

$|\overline{AB}|=\boxed{\text{ア}}$ である。直線AB上に,  $\overline{AB} \cdot \overline{OC}=0$ となる点Cを取ると,

$$\overline{OC} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}\overline{OA} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}}\overline{OB}, \quad |\overline{OC}| = \frac{\boxed{\text{カ}}\sqrt{\boxed{\text{キ}}}}{\boxed{\text{ク}}}$$

となる。

$\angle AOB$ の二等分線と線分ABの交点をDとすると,

$$\overline{OD} = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}\overline{OA} + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}\overline{OB}, \quad |\overline{OD}| = \frac{\boxed{\text{ス}}\sqrt{\boxed{\text{セ}}}}{\boxed{\text{ソ}}}$$

である。

三角形OABにおいて,  $\angle AOB$ の二等分線と $\angle OAB$ の外角の二等分線の交点をEとすると,

$$\overline{OE} = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}}\overline{OD}$$

となる。

また, 点Eを中心とし, 線分ABに接する円の半径は $\boxed{\text{ツ}}\sqrt{\boxed{\text{テ}}}$ である。